

学校経営推進費 評価報告書（2年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程
取り組む課題	生徒の自立を支える教育の充実
評価指標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の自己有用感、挨拶、マナー、コミュニケーション能力、職業観等の向上（学校教育自己診断） 2 環境問題やボランティア活動に対する意識の向上 3 中途退学率の減少、不登校生徒の減少、進級卒業率の向上
計画名	「学校油田」プロジェクト～プラスチックゴミで発電を～SDGsの観点から

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>2 生徒理解の促進と自己有用感を高める取組みの強化 (2) 特別活動、生徒会活動、部活動等を通じて、生徒の自己有用感を醸成する。 ア 生徒会行事、生徒の自主活動、ボランティア活動や地域連携事業の継続と発展をめざす。 【地域連携事業】 エコ・プロジェクトや地域・企業等と連携した「ゆめ・チャレ（小学生の職業体験）」等の就労体験活動のさらなる発展充実 ※ 様々な事業に応募し、その活動を通して生徒の自己有用感を醸成する。</p>
事業目標	<p>本校生徒に自信を持たせ、コミュニケーション能力を身につけさせる。また、基本的な生活習慣を身につけさせ、進級・卒業率を上げることや、中途退学率を減らす必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工科高校ならではの「ものづくり」を通じて地域に誇りを持ち、自分にも誇りを持つ。 ・環境活動を通して学校外で様々な体験をし、基本的な生活習慣を身につけ、コミュニケーション能力等をつける。 ・地球温暖化などの環境問題と、自然災害との相互関係について、「学校油田」プロジェクトに取り組むことにより学び、「復興支援プロジェクト」（学校経営推進費事業）で得た防災知識と結びつけ、自助・共助の精神を養う。 ・ボランティア活動に積極的に参加し、他者から感謝されることにより自己有用感を高める。 ・地球温暖化防止などの環境問題に取り組み、「プラスチックゴミ」で電気を作り、SDGsの観点から地域や被災地に向けて発信し、環境・防災の拠点校となる。
整備した 設備・物品	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックゴミ油化装置一式（改良費含む） ・プラスチック粉砕機
取組みの 主担・実施者	<p>プロジェクトリーダー：進路指導主事・学校設定教科「堺学」主担 学校油田プロジェクト企画・運営：「エコ・プロジェクト」及び「堺学」担当教員 地域（町会・小中学校等）との連携推進：進路指導部 生徒に対する諸活動：生徒会活動部 プラスチックゴミ油化装置・廃油再生燃料化装置・バイオディーゼル発電機の製作・改良：機械系・電気系職員</p>
本年度の 取組内容	<p>「プラスチックゴミ油化装置」の改良を行った。また、次世代に環境問題について考えてもらうために、子ども用「電動マリオカート」も製作した。「バイオディーゼル発電機」の改良にも本格的に取り組む、これまでの活動に加えて、生徒が製作した「プラスチ</p>

	<p>ックゴミ油化装置」及び「バイオディーゼル発電機」・「電動マリオカート」を地域や全国の被災地（被災地訪問も実施）などで活用することができるような体制作りを行った。</p> <p>プロジェクト参加生徒の増加により迅速な「学校油田」化が進み、生徒の自己有用感も高まり、中途退学率の減少、不登校生徒の減少、進級卒業率の向上につながった。</p>
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 「学校へ行くのが楽しい」「この学校には他の学校にない特色がある」「地場産業について学び、体験する機会が多い」（学校教育診断）65%以上 2 退学率 10%台の維持、1年生の進級率（65%以上）、学校全体の進級卒業率（75%以上） 3 学校油田プロジェクトへの参加生徒 50% 4 1年次エコプログラムの改良と2年次プログラムの作成・実施
<p>自己評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校教育自己診断の各項目の肯定率は、「学校へ行くのが楽しい」68%、「この学校には他の学校にない特色がある」75%、「地場産業について学び、体験する機会が多い」67%と、65%以上を達成した。……………（○） 2 退学率 10%台の維持、1年生の進級率（65%以上）、学校全体の進級卒業率（75%以上）を目標としたが、退学率 5.1%、1年生の進級率 81.8%、学校全体の進級卒業率は 88.6%と大幅に上回った。……………（◎） 3 全プロジェクトへの参加生徒 50%を達成した。……………（◎） 4 プログラムを改良し、実施することができた。……………（◎）
<p>次年度に向けて</p>	<p>地域住民の方々と、近隣の河川及び海の「クリーンアップ」活動を行い、海洋プラスチックゴミを回収する。また、被災地においても各学校と協力し、プラスチックゴミを回収する。回収したプラスチックゴミは「プラスチックゴミ油化装置」及び「バイオディーゼル発電機」による発電の資源にする。また、学校に「プラスチックゴミ」ステーションを設置して、地域の「プラスチックゴミ」を回収し、発電機の燃料にする。また、作った電気を活用する「充電ステーション」も設け、地域イベントや有事の際の「スマートフォン」の充電サービス等を行う。</p> <p>プロジェクト参加生徒の増加により「プラスチックゴミ」の収集量を増やし、発電の成果をあげることにより、生徒の自己有用感の向上や、中途退学率の減少、不登校生徒の減少、進級卒業率の向上につなげることをめざす。</p>

3. 事業費報告

今年度事業費総額	112,000	円
----------	----------------	---

積算内訳

* 決算科目（節）を明示し、節毎に積算内訳を記載すること。

科目（節）	番号	内訳	単価	数量	金額
1 報償費	1				
	2				
	3				
				小計	0
2 旅費	1	被災地訪問	¥79,520	1	¥79,520
	2	被災地訪問	¥32,480	1	¥32,480
	3				
				小計	112000
3 消耗需用費	1				
	2				
	3				
				小計	0
4 維持需用費	1				
	2				
	3				
				小計	0
5 役務費	1				
	2				
	3				
				小計	0
6 委託料	1				
	2				
	3				
				小計	0
7 使用料 及び賃借料	1				
	2				
	3				
				小計	0
8 備品購入費	1				
	2				
	3				
				小計	0
9 工事請負費	1				
	2				
	3				
				小計	0
10 負担金・補助 及び交付金	1				
	2				
	3				
				小計	0
				合計	¥112,000